

第87号 長野地区会ニュース

令和2年 5月15日
発行 国臨協長野地区会
発行責任者 平原博美
編集責任者 小山知夏



contents

- 会長挨拶
- 新会員による自己紹介
- 定年を迎えて後進へのメッセージ <齊藤 美穂子>
- 編集後記

会長挨拶

会員皆様には日頃より長野地区会活動にご理解ご協力いただき感謝申し上げます。令和元年度総会は新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、中止とさせていただきます。急な中止により、皆様には大変ご迷惑おかけしますこと深くお詫び申し上げます。また交流会は参加者が募れず中止となりましたが、1月発刊の地区会ニュースには忘年会の様子や新年の抱負を一言ずついただき、“つながり”を感じることができたのではないのでしょうか。

4月1日付けで長野地区会に異動してこられた皆様、ようこそ信州信濃の国へ。地区会ニュースに挨拶を寄稿いただきありがとうございました。総会中止により皆様と交流できる日は遠のき、経験したことのない世界的感染拡大という現状ではありますが、一日も早く長野県に慣れて楽しんでいただくと共に職場ではその力・個々の魅力を遺憾なく発揮していただき、長野地区会を盛り上げていただけることを期待しております。

長野地区会総会の書面表決準備を進めております。皆様には大変お手数おかけしますが、新たなスタートを切り、変わりゆく環境に力強く向かっていけるよう、これからもご理解ご協力賜りますよう心からお願い申し上げます。

新会員による自己紹介

この度、新しく長野地区会へ入会されました
新会員の方々より自己紹介をいただきました。



小諸高原病院 沼田ますみ

令和2年4月1日付で、千葉県の下総精神医療センターより小諸高原病院の臨床検査技師長として昇任いたしました。初の長野地区会入会となります。分からないことも多々あり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆様どうぞ気兼ねすることなく、ご意見やご指導いただけますようよろしくお願いいたします。

小諸高原病院は標高1000mという高い位置にあり、体感的には噂以上の寒さに戸惑いを感じつつも、空気が澄み自然豊かな環境は、福島県で生まれ育った私にとっては都会以上の魅力と懐かしさを感じており、とても充実した毎日を送っています。

趣味はミュージカルが大好きで、舞台鑑賞を趣味としておりましたが、長野へ来てからはDIYに変わりました。小諸高原病院へ来るにあたり宿舎を希望しましたところ、10年近く入居者がおらず「これでも入居しますか？」と挑戦状を突きつけられたかのような燦燦たる宿舎事情に、当初は入居をどうするか迷いながらも、私の眠っていたDIY (Do it yourself) 感情がふつつつと沸き上がり、自分が住んできれいにすれば済むこと、と意気込んで入居を決定。いまは週末ごとに少しずつ掃除はもとより、壁の修復や塗り替え、障子やふすまの張替えなどをして時間を有効に使いながら過ごしています。新型コロナウイルス対応に長野地区会の皆様もご苦労なさっていることと思いますが、DIYは丁度このご時世にあった趣味になったと思っています。

皆様の勤務先でも検査はもとより、感染防止等にも神経をすり減らしている事と思いますが、これからは私も長野地区会員の一員として健康維持に留意し、長野地区会の発展に寄与できるよう努力していきたいと思っております。皆様、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



まつもと医療センター 新谷 和之

長野地区会会員の皆様、初めまして。この度、4月1日付でまつもと医療センターに昇任でまいりました新谷和之です。シンタニ？アラヤ？ニイヤ？いえいえ「シンヤ」と申します。自宅は千葉県千葉市の海を臨める地域にあります。こちらに異動する以前の直近2施設は遠距離通勤だったため、4時半起きの生活が9年間続いており、慢性的な寝不足になっておりました。現在は施設までは車で15分ほどの塩尻駅近くで単身赴任生活を始め、早起きする必要はなくなったのですが、長年続いた習慣は身体から抜けきらず5時前には目が覚めてしまう生活が続いております。はじめての長野、はじめての単身赴任、はじめての副技師長職とこれから多くのことを吸収し適応していかなければなりません、「焦らず、慌てず、諦めず」着実に進んでいこうと思います。COVID-19の影響で皆様に直接ご挨拶できるのは少し先になってしまいましたが、地区会等でお会いできる日を楽しみにしております。まずは略儀ながら誌面上にてご挨拶申し上げます。



信州上田医療センター 梅戸 克之

このたび4月1日より信州上田医療センターに赴任してまいりました梅戸克之と申します。7年ぶりに長野地区会へまたお世話になることとなりましたので、会員の皆様、何とぞよろしく願い申し上げます。

私は、米（あきたこまち・・・以外にない？）・酒（おすすめは新政No.6）・美人（佐々木希ではなく壇蜜！）どころの秋田の出身です。よく秋田訛りで話をしてみてと言われますが、気づきましたら訛りを忘れるぐらい秋田以外に長く住んでおり、上田へは20年前の異動により、ふとしたきっかけで上田が本拠地となってしまいました。7年前に東京へ単身赴任となりましたが、7年で東京にも単身にも慣れた生活が、今回また上田での生活に戻り、何かと戸惑っております。単身前は向こうから近寄ってきてくれた娘二人も、今では私から近寄っていくと離れていく淋しい状況で、当面の目標として検査科スタッフとのコミュニケーションはもとより家族とのコミュニケーションも充実させていきたいと考えています。また、当検査科ではISOに基づいた取り組みを行っており、今後、一日も早く戦力となり、検査科がさらなる進歩を遂げられるようコミュニケーション同様に努めることを意識しています。

昨今、昨年1月の時点では他国の話題で、まさか日本が数カ月でコロナ禍になろうとは想像さえもしていませんでした。希望的観測で上田市には発生しないと思っていましたが、着任一週間目で1名の方が新型コロナウイルス感染として当センターに入院され、慌ただしいはじまりとなりました。世界的に依然として収束の兆しは見えていない状況で、日本においても全国的に各種イベントの延期・中止・自粛が相次ぎ、6月の長野地区会の中止も致し方無いとは思いますが、非常に残念でなりません。新型コロナウイルスが一日も早く終息し、長野地区会が開催され、三密を気にせず会員の皆様と交流を深められることを願っております。長野地区会へ及ばずながら全力を尽くしますので、今後ともよろしく願いいたします。



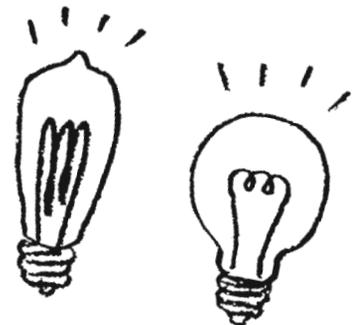
まつもと医療センター 原田 崇浩

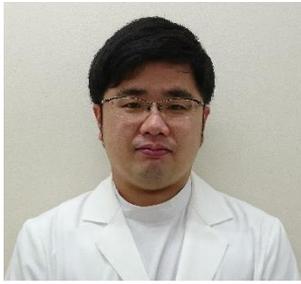
初夏の気配も感じつつも、まだまだ朝晩の冷え込みが厳しいこの頃、長野地区の皆様におかれましては、御活躍の事と存じ上げます。令和2年4月1日付けで国立国際医療研究センター病院よりまつもと医療センターへ異動となりました原田 崇浩と申します。どうぞ宜しく願い致します。

当施設の前澤技師長はじめスタッフの皆様には御迷惑をお掛けするばかりですが、悪戦苦闘しつつ、何とか毎日を過ごしております。一日も早く仕事にも松本にも慣れ、共に成長していければと思っています。

私事となりますが、以前より北アルプスを中心とした夏山登山を楽しんでおり、昨年は白馬岳を大雪渓ルートで登頂しました。今夏もどこの山を登ろうかと思案中です。（現在、片道約2.5kmの徒歩通勤とYouTubeのなかやまきんに君の自宅で筋トレを視聴しながら鈍った肉体を再強化中です。）

長野地区会に再入会というのも何かの縁であろうかと思っておりますので、長野地区の皆様、今後とも何卒宜しく願い致します。





まつもと医療センター 宮坂 章平

4月より、国立病院機構まつもと医療センターに入職いたしました宮坂章平と申します。

東洋公衆衛生学院を今年の3月に卒業し、長野の地へ参りました。出身地は山梨県甲府市で、隣県ということもあり長野県には何度か訪れたことがあります。

現在は臨床検査科の中で検体検査の業務に取り組んでいます。前澤技師長をはじめとする技師の皆様のご指導を仰ぎながら、1日でも早く一人前の臨床検査技師になれるよう日々全力で取り組んでいきたいと思っております。

また、美味しい蕎麦やリンゴなどの食と、美しい山々や湖などの自然がある長野県での生活も楽しみにしております。現在はコロナウイルスの影響で休日は自宅で過ごすことが多くなっておりませんが、この騒動が落ち着きましたら、日常の業務に加えて休日の長野県での生活も充実させていければと思います。

まだまだ未熟者で皆様にご迷惑をおかけしてしまうかもしれませんが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



信州上田医療センター 竹村 彩希

4月1日付で信州上田医療センターに新規採用となりました竹村彩希です。

学生時代に、まつもと医療センターで臨地実習を行ったことがきっかけで、国立病院機構の採用試験を受験した結果、合格し採用となりました。

私の出身は長野県駒ヶ根市で、県内の施設に配属していただいたことをとても嬉しく思っています。長野県民でありながら、初めて上田市に訪れることとなり、これからの上田市での新生活がとても楽しみです。

現在は、検体検査室で業務を担当しています。今は迷惑をかけてしまうことが多く、自身の知識・技術・経験不足や、正確且つ迅速に業務を行うことの難しさを痛感している毎日です。しかし、検査科の方々に恵まれて、様々なことを教えていただきながら充実した日々を送っています。これからは、学生ではなく医療従事者としての自覚と責任を持って業務に臨み、より良い医療を提供できるように努力していきたいと思っております。そして、今学んでいることのひとつひとつを自分のものとし、レベルアップしていけるよう頑張っていきます。

長野地区会の皆様、どうぞご指導の程よろしくをお願いいたします。



～定年を迎えて後進へのメッセージ～

齊藤 美穂子

令和2年3月31日付で小諸高原病院を最後に定年退職となりました。

昭和57年4月国立東京第二病院を初任地として5施設38年の永きにわたり勤務いたしました。長野地区会には平成10年からの11年間と平成27年からの5年間の2回、計16年間在籍いたしました。この間多くの皆様を支えていただき、この日を迎える事ができました。本紙面をお借りしてお世話になった皆様にお礼を申し上げたいと思います。初任地の東京第二病院（現：東京医療センター）では、仕事と子育てに奮闘した日々が思い出されます。当時は今のように育児休暇の制度もなく産休明けから無認可の託児所に子供を預けながら仕事を続けました。幸運にも現役ワーキングマザーである先輩が在職しており、公私ともにサポートして頂きました。また当時は転勤という制度が今のように頻繁ではなく、30代は2回も転勤の申し出を断りました。3回目で転勤を決意しましたが、今思えば当時の技師長には随分迷惑をおかけしたと思います。転勤先での信州上田医療センターでの11年間は私の検査技師人生の転機となった事は間違いありません。検査科長、当時の技師長の厳しい指導の中、私の40代は認定資格取得に必死で勉強した事が思い出されます。当時は検査科全員が業務、それに伴う自身へのスキルアップに一丸となり取り組んでいました。この頃でしょうか。今でも尊敬している上司と出会うのは。様々な管理・運営は素より特に「迷ったら患者さんの立場に立って考えなさい」と教えられ、私はこの言葉をとても大切にしてきました。臨床検査は多くの分野があり、その分野毎に多くの知識を必要とする大変な業務ではありますが、すべては患者さんのためという気持ちで業務、自身のスキルアップに努めてまいりました。日々進歩する医療に対して私はどの程度ついていけていたのか、努力できたのかと反省の日々です。業務は忙しいけれど多くの資格試験や学会発表にチャレンジして行くことは自分が成長できる大切なツールであると思います。将来管理職や、部下の育成に努める立場に立った時も自分があの時期努力したという経験が大きな力となります。また病院からも信頼される検査科となる一助となるはず。大いに活躍してください。皆様の成長を楽しみにしています。現在日本は高齢化社会が訪れ医療費も年間40兆円を超える勢いで増加しています。国の政策医療も急性期医療から慢性期医療（在宅医療・介護医療）に転換しています。このような状況の中、私たち検査技師が活躍出来る将来展望を模索して将来に向けた組織作りが大切と思われ。臨床検査専門職を中心に、臨床検査技師協会本部、支部、技師長協議会では多くの理事の方が働いています。ぜひ若い方達は積極的に参加し、意見を述べ、自分達組織の向上のため努力して頂きたいと願います。

さて今般新型コロナウイルスのパンデミックで、世界中が混乱し、日本も時間が止まったように機能不全に陥り、先が見えない状況が続いています。新型コロナウイルスは何か私たち人間に警笛をならしているようにも思います。本来は動物と共存していかなければならないのに自然を破壊してきた罰が下ったようにも思えます。先日、中一の孫と歴史の教育番組を見ていますと、「なぜ歴史を学ぶのか？」という問いがありました。人類は過去にもさまざまな出来事がおこりその都度乗り越え、今があります。より良い未来を作り上げるために歴史を学ぶ意味がある事。先人を学び歴史を紐解く事で、今直面している危機を乗り越えていけると、歴史の奥深さを学ぶとともに一日でも早い収束を願うばかりです。

最後になりましたが、長野地区会の益々のご発展と会員皆様のご多幸とご活躍をお祈り申し上げ、私の挨拶に代えさせていただきます。本当に長い間ありがとうございました。

～編集後記～

まずは新会員皆様、ようこそ長野県へ。長野県は自然豊かで食べ物がおいしいステキな場所です。現在は外出自粛の期間ですが、落ち着きましたら、ぜひ自然豊かな長野県を満喫してください。そして、新型コロナウイルス感染拡大の影響で対応に追われる日々を過ごし、またプライベートでもstay home!!お家時間を過ごしていると思われそうですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年度の地区会ニュースも最後となりました。稚拙な誌面でしたが、楽しく作ることができました。ご協力ありがとうございました。皆様、くれぐれもご自愛ください。

G.K.